



集義外書

削簡三

三

地

2760
8-3

學大田稻早
館書圖
庫文田內者托寄
號〇五一第書托寄
號 7 第
冊 20 第



仁三
2760
卷8-3

文泉堂

集義外書卷五

脱論二

一 朋友同く云。黄金白銀ハ。乾坤乃至精なり。人亦ゆまは。多
かり。却て異國ハ。後ハ。ゆま事ハ。いへ。人あり。又有を
一 ぬく。云。ゆまハ。常。此。理。なり。人。及。ハ。文章。あ。は。る。を。れ
ん。唐。の。ゆ。ま。を。来。して。衣服。の。さ。は。は。あ。と。も。も。礼。を。り
と。人。あり。いつ。ま。う。是。と。て。ゆ。ま。ん。答。と。云。日本。の。四。海
よ。と。と。れ。ら。と。い。ふ。ゆ。ま。ハ。國。土。を。盡。あ。と。も。人。公。通。明。な。る。ゆ
り。近。世。ハ。國。土。の。界。と。う。す。く。人。も。お。り。ゆ。ま。ハ。山。溪。の
至。精。を。と。り。人。く。さ。す。て。金。銀。銅。鉄。多。あり。出。し。異
國。へ。ま。ま。後。し。山。を。越。川。流。く。海。へ。ゆ。り。て。も。あ。り。ん。り。又。有
云。を。く。あ。は。と。い。ふ。ゆ。ま。ハ。久。と。て。不。叶。ゆ。り。事。程。の。ゆ

内田宗子氏



集義外書卷五

くくいはるる人。系敷の如く。危物とあててすすも。政の
のわりやうに。日本の中にて。昔から物とをか
く。日本のさぬの。用ふる時。人たも風流う
ゆりき。進代り。物多き。まじり。人たもやうく
けりゆり。人も才知の。用ふる時。人たもやうく
徳と。まじり。用ふる時。人たもやうく。徳と。まじり。
うらうら。國土乃精と。あてて。人たもやうく。徳と。
一朋友同く。云。抄と。今一人。あてて。家の老と。ゆり。
同役よ。家中の者。あてて。あてて。あてて。あてて。あてて。
へのまじり。あてて。あてて。あてて。あてて。あてて。
じま。あてて。あてて。あてて。あてて。あてて。
のまじり。あてて。あてて。あてて。あてて。あてて。

了。行きて。人の親と。出来ゆ。あてて。あてて。あてて。
人天質寛裕溫柔ゆ。又人親と。あてて。あてて。あてて。
中と。あてて。あてて。あてて。あてて。あてて。
らり。あてて。あてて。あてて。あてて。あてて。
より。あてて。あてて。あてて。あてて。あてて。
人の武勇と。あてて。あてて。あてて。あてて。あてて。
ま。あてて。あてて。あてて。あてて。あてて。
用を。あてて。あてて。あてて。あてて。あてて。
る。あてて。あてて。あてて。あてて。あてて。
厚恩。あてて。あてて。あてて。あてて。あてて。
あ。あてて。あてて。あてて。あてて。あてて。
の。あてて。あてて。あてて。あてて。あてて。

我々もさういふ事と欲してはなれども。其争れと
 と好くもぬれぬよ。徳士の親く有るは。其書とよ
 足多し。何乃くあや。許由ハ天下とた辭して。帝堯と
 代官と。天下と平治せり。ふも田舎の同よ。そのあり
 いも。や一國一郡の管領人よ。ゆるり。さ川く。そのい
 乃成る。てい。川乃。時より。凡情をすぬ。ま。つん。ま。れ。後
 乃せ。じ。ふ。あ。う。人。の。志。よ。さ。う。人。親。も。も。悔。り。は。さ。り。の。不。得
 己の。振舞。音信。等。い。の。ふ。ま。さ。り。を。ら。さ。う。あ。ま。ふ。ん。と。起
 して。せ。と。事。ハ。さ。用。の。片。り。ま。る。る。人。さ。ま。の。な。ま。り
 ぬ。う。は。家人。百姓。等。ふ。め。ら。と。終。り。忠。あ。ん。用。東。云。事。の
 と。た。う。さ。と。さ。川。め。ん。を。と。も。て。凡。情。の。悔。り。と。案
 ころ。例。の。あ。り。ぬ。ま。と。獨。笑。あ。ん。け。と。た。神。く。考。子

乃此を是あり

一故者の言。其れ流言ふりて。妻と。は。あ。り。親。類。知。音。こ
 ち。は。い。さ。と。り。た。た。妻。と。い。は。後。人。を。う。め。さ。ん。と。い。ふ
 こと。を。突。く。昔。く。云。一。人。妻。と。り。さ。不。徳。か。ら。ふ。親。類。知
 音。又。妻。と。ん。と。い。ふ。禍。を。う。さ。め。り。今。後。人。ハ。妻。方。さ
 ら。の。あ。さ。う。思。え。ん。と。思。え。ん。妻。方。妻。後。人。を。う。め。り。人
 て。利。を。得。て。妻。と。ん。と。い。は。後。人。却。て。妻。方。を。成。わ。さ。と
 さん。さ。ん。又。禍。の。種。を。ま。き。り。罪。を。く。して。妻。と。ハ。然。と
 ぶ。よ。い。と。と。大。弁。ハ。弁。を。は。り。て。誠。ハ。不。言。して。さ。ら。は
 下。且。妻。者。ハ。年。日。く。身。ま。は。い。ぬ。く。して。妻。方。か
 る。り。憂。と。す。今。幸。に。夫。より。文武。の。子。孫。と。あ。り。い。い
 時。文字。武。藝。よ。達。一。親。類。知。音。の。子。弟。ゆ。く。も。妻。者。ハ

よめて多し。其恩あるも。後人のあまは。何とて福神也。
恩とて報謝とても可なり。何とあまは。何とて福神也。
君子法中に湯をこぼす。昔といふのと。福とてなして福
とすふものなり。其と貪賤憂戚ハ天道攸好徳の意命
なり。す法をよとて。日成也とて。きの何あり。妻者に人と
か。とて。財をよとて。富つとて。前乃後福よとて。争訟の
るをよとて。十分は利とて。今乃人情よとて。争つとて。
一とせとて。あまはとて。技術とて。法彦者とて。一類
中ハ。年来のよとて。成すて。後業をよとて。罪あんと。一類
乃いふに。その身をよとて。妻と親よとて。ものまといとて。
あまはとて。福神也とて。福神也とて。福神也とて。福神也とて。
一心友同剛教本誦の質。いりて。にはらうまや。云剛教乃人。

道とて。まよとて。其勇力と用く。物欲より。利害よ
屈とて。本納の人。素朴遅鈍の生付よ。とて。いつく時ハ。あま
とて。已りあま。故に。一近一
一剛友同。我ち。所人よ。その成好者も。見ざる。知る。所人乃
福も。とて。武士の神乃とて。学カのあま。云。所人の
や。た。た。市井乃利を。あま。とて。武士の神。た。こ
と。と。貪困と。勝を。と。ひ。義理の。ま。ま。ま。
知。有。と。ま。ま。云。ま。は。わ。か。た。と。ま。ま。ま。ま。
よ。学。者。ま。ま。の。も。好。く。利。害。よ。か。り。ぬ。や。ま。ま。ま。ま。
云。是。ま。ま。の。ま。ま。わ。か。る。所。人。に。と。同。ま。ま。ま。ま。所。人。の。風。神。よ
て。ま。ま。所。人。と。ま。ま。ま。ま。衆。よ。異。な。る。人。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ら。の。所。人。あ。ま。風。神。と。ま。ま。ま。ま。ま。ま。所。人。の。人。の。ま。

和書集之五

卷一

四

しじろ者おれし人の下がる事と云ひしは分と過し。ふ
 をこえく人のよき人なるを彰すのなり。凡そ商は異な
 さま。公乃翁ん。平人よりも尊し。これとましくや
 學者とは人としはつ。相争相務の徳を教ふなり
 一。風神は商は居く。商を以ぬ。公乃市井のを以
 つかく。義理のされゆきありて人を恥と云ふ乃に公
 わりといふ。酒も小奇持をく。昔人乃物倍せし。長袖
 の家人よ生付。欲とくなく。富よを以ぬのあり。同。學して
 文才もわり。其才親乃代より富有なり。云うれた不義乃
 富なり。事と知り。ありさうふけり。あつね淋をとりて。
 財よ多くとり。くしてはく。まやうおけし。妻子のおけき。
 年いさ。公乃われよりおれた。古よりをわく。じろはこれ

人。歸ふしぬ。今ハ知くも小落今。是非を以ぬ。と人
 已。今時市井の中ハこれなり。家人おし。けき
 けり。其奮友よ。富教もの二三人あり。つねの家人十人
 二十人ハ。考家をも。考ふ。一きものわり。公乃。まき。りせ
 と。ましく。財とせ。公乃不義よ。と。け。け。富人
 は。これ商人おれた。不及是非なり。おれた。學者とを。て。
 天下のる。ま。と。任。と。と。人。お。小。餘。い。い。た。く。公
 名。お。ま。き。と。也。と。く。り。ま。云。則。て。今。ハ。富。人。れ。ま
 名。あり。が。あ。く。も。今。館。と。出。し。人。を。ま。ま。く。お。あ。く。あ。る
 一。る。ハ。と。る。事。と。と。し。ゆ。い。云。ろ。と。る。市。井。の。事。か
 らん。風。神。と。考。あ。く。よ。う。あ。く。云。い。う。あ。く。も。ハ。あ。る。
 乃。理。よ。く。ゆ。り。ま。く。ゆ。候。も。る。ゆ。り。あ。く。云。い。か。く

夕書卷之五 附論二

自らつらつらとく。けしむ。者く。悪人とつらつと遊る。
 らと。形同して。を夫たり人き。の。小人を。つらつとて。んと
 命とら。つらつと。終は。必を。むく。あ。なり。神。なり。是。あ。く。何。を。睽
 へ。ま。や。る。を。ま。よ。よ。の。ん。寛。弘。を。ん。我。り。人。を。さ。け。人
 行。を。睽。く。さ。る。ま。き。人。人。と。交。り。ん。小人。を。つらつと。さ。つ。つ。
 三三。火。の。り。あ。ら。る。其。志。不。同。あ。つ。と。も。伴。を。合。く
 一。卦。と。あ。る。二。女。同。居。して。其。志。不。同。と。つ。つ。是。君。子。と。小人。と。
 其。志。是。り。て。同。く。世。の。象。を。り。又。今。の。と。れ。道。行。の。ま。じ。
 ぞ。あ。ん。と。世。同。く。と。じ。け。ふ。と。い。せ。る。の。罪。は。あ。れ。世。の。ま。ま。の
 名。あ。れ。た。と。ま。よ。と。云。人。あ。つ。と。も。世。よ。と。の。く。益。あ。る。を
 を。さ。つ。と。く。つ。つ。と。く。害。あ。る。を。ま。ま。と。道。を。い。ふ。く。世。よ。と。
 ま。よ。と。の。り。あ。ら。る。勢。を。ん。と。害。と。か。と。と。の。い。ん

乃。ゆ。ふ。動。く。害。然。と。し。ん。ま。ま。の。い。其。害。と。あ。つ。と。の。罪。と
 つ。つ。り。て。動。く。と。あ。つ。と。と。世。人。其。本。と。不。知。う。れ。ま。又。今。也。
 世。人。乃。罪。ま。あ。れ。た。ま。ま。の。名。あ。ら。る。く。世。よ。と。不。助。あ。る。と。一
 あり。し。の。ま。ま。あ。つ。と。あ。や。う。ら。ん。一。終。は。け。義。吾。人。の。口。より
 世。よ。と。の。い。是。又。人。情。を。知。あ。り。同。う。れ。人。を。つ。つ。て。世。よ
 功。あ。る。は。法。徳。あり。此。陽。報。は。後。世。う。あ。ら。れ。た。り。ま。つ。
 云。徳。と。害。と。い。つ。と。多。少。あ。ら。ん。此。後。の。事。知。つ。つ。同
 終。は。ん。と。せ。ぬ。人。乃。賢。知。乃。人。を。あ。つ。と。と。け。い。何。と。や。云。是
 人。情。乃。く。如。り。あ。り。賢。知。の。ま。え。あ。る。人。を。あ。つ。と。の。い。悪
 く。あ。つ。と。必。才。知。あり。雷。強。や。て。争。か。あ。ら。ぬ。人。は。已。よ。と。
 子。の。と。好。く。ま。ま。れ。る。を。あ。つ。と。あり。睽。の上。九。よ。云。睽。孤
 見。豕。負。塗。載。鬼。一。車。先。張。之。孤。後。說。之。孤。非。冠。婚。媾。性。遇

兩則吉上九八賤のくはは當く。よまきり。強剛ゆえんはく
よとて。賢知乃助なきはきしひくむりあり。我知よ自滿
るく。賢は得くるのくあり。才使のやえあはよのあり。己
よとて。好どし志うまのくあし。志無じよ。承のけ
か。わさる。あつも泥を力よ夢り。さるは。は。但て。懸
へ。は。上よ。立人賢知をあし。さるは。小人是よ力と
ゆ。持くの虚説と云。説をつく。鬼と一車よ載
ぶ。は。を有する。思ひん。人の。を
云と。あは。細大本若人。て。さ。人。
其の款よ。あは。後。は。を。法
ひ。と。後。は。を。法
陽交。和。は。は。物。は。必

よと愛する。は。の。は。和。を。
君あり。人。一旦。乃。災。難。よ。正。邪。を。守。り。時。を。終。
し。あり。又。思。ま。る。人。必。し。と。君。子。に。あ。は。し。人。か
ら。と。も。小。人。は。あ。は。れ。も。情。の。さ。し。り。あ。り。し。あ。れ。ゆ。き
て。し。く。も。の。あ。は。し。く。も。の。言。聚。る。と。の。ち。り。虚。説
遠。言。と。ふ。あ。れ。と。と。あ。は。し。く。人。鬼。の。形。を。い。は。
車。よ。の。と。く。は。あ。は。と。の。は。と。云。く。虚。説。言。乃
ま。と。さ。し。く。の。ま。よ。の。ま。か。よ。は。は。く。は。人
と。の。の。と。い。あり。て。は。あ。は。れ。の。ち。り。孔。門。の。曾。子。と。大
賢。あり。固。中。よ。同。名。乃。名。有。く。人。を。と。ん。と。り。名。の。同。
さ。り。ゆ。ん。あ。や。ら。り。て。曾。参。人。を。教。え。り。と。昔。は。と。の。あり。賢
子。曾。参。の。母。柝。を。掛。む。ら。り。が。も。不。驚。し。て。と。と。と。る。ゆ

やいん。聖学の徒は。儒名と名のつらうと人の中はあり。
人道の常をわけて。別は修めし。世人の耳目とせらるる人ま
る。かゝる業を以て。松柏を如せ。世に忠臣と知れし。大愛
よめし。其徳あり。聖人の名は。平比のこゝ。
異端のまは。いふ。こゝ。こゝ。平比は。及。一
と。こゝ。て。峻。道。を。以。て。目。を。お。ろ。く。平。比。あ。り。大
道。を。以。て。人。が。ろ。く。事。お。し。出。家。あ。り。て。其。名。あ。り。
と。き。こ。り。人。が。ろ。く。を。け。ん。と。せ。さ。さ。く。は。う。り。ぬ。平。人
を。り。つ。き。こ。り。て。い。ふ。ぬ。と。い。ふ。も。あ。り。て。平。比。と。す。
し。小。村。よ。と。い。ふ。か。り。こ。り。こ。り。と。い。ふ。も。あ。り。て。平。比。と。す。
を。り。つ。き。こ。り。て。い。ふ。ぬ。と。い。ふ。も。あ。り。て。平。比。と。す。
一 朋友同行の人をきく。馬車地より。度く。か。り。ぬ。と。い。ふ。ま。う。

き。ほ。お。り。と。り。され。と。な。れ。たり。と。い。ふ。も。あ。り。て。平。比。と。す。
つ。ら。う。の。ま。い。人。あ。り。と。い。ふ。も。あ。り。て。平。比。と。す。
云。ん。の。ま。い。と。い。ふ。も。あ。り。て。平。比。と。す。
一。じ。つ。と。い。ふ。も。あ。り。て。平。比。と。す。
若。と。い。ふ。も。あ。り。て。平。比。と。す。
若。の。ま。い。と。い。ふ。も。あ。り。て。平。比。と。す。
り。平。比。と。い。ふ。も。あ。り。て。平。比。と。す。
よ。武。士。の。ま。い。と。い。ふ。も。あ。り。て。平。比。と。す。
と。う。り。と。い。ふ。も。あ。り。て。平。比。と。す。
武。士。の。ま。い。と。い。ふ。も。あ。り。て。平。比。と。す。
け。り。陪。臣。の。馬。と。い。ふ。も。あ。り。て。平。比。と。す。
と。い。ふ。も。あ。り。て。平。比。と。す。

是とも。我朝王代乃。学校の種ハ多ク。唐の法ハあ
 いふ。かへり。日本の國俗より。あふ。きり。いふ。云和
 漢古今共々。其ハかゝり。國俗ハ時勢によりて。右ハ
 先へ。より。右を先へ。より。の。かゝり。有。今日本ハ國
 俗ハ。武と。考。ふ。して。文を用ひ。ゆ。と。あ。う。ま。た。文。を。て
 ハ。一。日。と。ま。く。紀。乃。理。あ。と。ハ。き。よ。文。を。用。く。不。知。乃。と
 今ノ人情を。わ。く。て。学校を。有。さ。ハ。右と。先。と。武
 藝。上。り。法。を。く。十六。以下。の子。ハ。弓。馬。射。法。を。考。ふ。し。
 且。く。武。藝。上。進。く。あ。う。あ。う。ハ。法。士。学校。の。法。試。知。た。し
 同。何。を。常。に。文。よ。り。と。云。や。云。正月。元。日。より。け。し。め
 て。考。刀。折。箭。も。同。等。法。以。く。君。長。の。礼。を。行。ハ。文。を。り。
 上。下。羽。織。も。海。と。忌。し。至。宮。の。礼。義。と。考。し。去。後。附。来

とも。と。文。を。り。考。れ。五。節。句。報。を。贈。れ。元。服。病。を。と。い
 死。を。と。考。ぬ。ま。その。り。文。よ。あ。は。し。と。あ。う。あ。う。幼。少。ハ
 八。九。歳。より。十三。四。まで。ち。又。あ。ま。き。と。考。う。と。い。文。字。よ
 足。せ。き。する。む。文。を。り。考。入。流。う。り。と。い。事。流。く。い。ある。事。
 多。し。と。い。と。い。事。考。う。と。い。事。考。う。の。わ。く。さ。る。ゆ。人
 かり。つ。一。と。考。入。の。考。あ。り。と。い。ハ。文。を。り。を。知。と。考。入。
 け。放。し。け。れ。武。士。ハ。能。書。文。字。れ。人。多。う。り。き。植。心。成
 考。う。い。き。書。せ。と。考。う。の。り。と。考。入。と。い。ハ。後。世。武。士
 考。う。り。と。い。考。入。考。う。て。文。道。と。い。い。さ。み。り。て。文。盲。と。考。入。
 世。々。風。俗。と。考。入。り。難。多。く。考。入。其。非。を。考。入。と。考。入。是
 学校。よ。り。死。師。と。考。入。月。行。役。人。考。入。口。論。不。作。法。考。入。
 考。入。法。を。考。入。十六。以下。の子。ハ。も。考。入。と。い。考。入。考。入。

行くは教へしふゆとハ。馬法と才一うて。も智文
 字よみと也。其才のり法才よ師へ好くハ。中道
 よ志を人をは。別よいさうけく。軍書み終を備わす。
 礼樂弓馬也。そのけきあうく。其才文武二道乃士
 也。其れん。今の因信と也。あまらるるあまらる。同業授
 しておけと也。國を備ふ。家中に武藝とありけり。あむ
 りを彩しく。弓馬法をの字の上も。武藝技持を備は
 とも。其是あれたる多きハ何ぞや。云其師乃西へ
 ありたり。其台より右の中に。人のあきさるものあり。より
 さよものや。あきさるものあり。万能一心といふは。ことハ
 さめく。其台せさるものよハ。なんぞ。其台とるもの
 人口よかふ事ゆり。又兄ハ。信もの。是といふゆり。其は

され。七武藝の師ありて。是とくれき一なり。学校とてハ。
 ちの目付也。其とよ。おとて。私のも。今を禁とれハ。人
 らよ。あきさるものありと也。人をそこをふりあきさ
 とも。猶とて。其術をさく。さきものといハ。又学校とて。別り
 今日をあらう。学校乃。品ハ。信陽の学校乃。立や。武
 家の情より。あつて。後世は。をさる人あり。さきり
 一心友同。夏后氏ハ。六十に。貢と。といふ。一丈五十畝を
 受く。五畝と。うさう。年貢に。さけさる也。殷人ハ。七十
 めて。脚と。といふ。始く。井田乃。制あり。六百三十畝の地
 と。益して。九區と。といふ。一區七十畝なり。中を。公田と
 とい。ま。八家各一區。七十畝を受たり。其力と。信く。公
 田を。助耕して。其私田。税を。取らる。れを。助法といふ。

周人のこれより録月ゆ。而故して徹と。郷遂の貢法を
月ひ都鄙の助法と司ゆ。耕とそれハ八家カと同しく
作す。かさじりそれハ畝をけりてより川。故よこれを徹
と云。其更ハ皆什一なり。貢法ハ十分一を以常の穀
とす。助法徹法と八九ありとし大。廬舎と公田の中より
一畝。商人ハ十四畝とす。周人の二十畝とす。故よ。商民ハ七
畝を公納とす。周民ハ十畝を公納とす。或ハ井をあり。或ハ
井はかさすとしす。什一ハはる。日本ありハ貢助徹
乃中。いつと用ふ。かさや。云王代ハいつ及もす。或家
の代と成る。貢法を用ふとす。右の割乃強り。日本
亦まは。ある。故は。皆十一の貢ハはる。日本の土地
よハ。井田の法ハ用ふ。中國にても。日本の土地乃極

あり。皆貢法を用ふ。同今の割ハ四分六分なり。四
分而性なり。六分地。今日本に。十一乃法を
用ひハ。大分小分。小武士ハ一年と立く。却て礼
の福と。右と。日本ハ。右も。かま。れ
ゆ。云。四分六分。六分年貢とあり。四分而性
とあり。云ハ。上田の水と。下田の水と。水を。高と。水
と。作。より。多。田。六分年貢あり。亦。乃。也。
中田ハ。六分。而。性。四分年貢とあり。下田ハ。十。乃。て。二。乃。
年貢とあり。八分。而。性。七分。年貢とあり。ひ。は
中田ハ。一年。地。を。や。と。作。上田の。下。及。下
田ハ。二年。や。と。作。上田の。下。及。下
田。地。を。受。は。と。多。か。て。十。乃。て。一。を。年貢に。け。り。

同代に賢君出ずるごとく。臣下も成るべし。一代の
 よ。本切に事ハ成る事。云々のありて。通時
 あり。相継て功を成る人出ずる也。学校の政
 けさ。継君ハ治事によらる人あり。大吏も
 くよく成るものなり。同書法ハ
 時不後あり。より。而あり。時ハ
 てハ

集義外書卷立終

文泉堂

集義外書卷六

脱論三

一心友問曰。世間の儒者乃。君子ハ儒小わらる事ハ余と
 今時ハ学者。格法者。朱子王学陸学たどて。多
 うれと。何ぞ。是と。答曰。三皇五
 帝。三王乃御代ハ。儒者といふ者。儒乃名を初て
 周官小出之。と。後世乃儒者といふ者。小
 小わらる。周官小わらる。乃儒といふ者。士君子ハ重
 此ハ。道藝と教る者。と。小
 して。武士ハ武道ハ。生付仁愛と云
 分わらん。其人ハ禮樂文章わらる。古乃士君子と

集義外書卷六

一

秦乃代り。天下乱世から事久し。士君子皆茂事小なり
わづらひく。海あり。子孫ハよく。無学は成りて。乃と
あつされん。師儒乃民間小なり。其子孫あしお
し。まされぬ。あつらひ。同者小教へしなり。されん。古の事。成
る。つ。傳へる。乃。世。世。小。官。此。儒。乃。な。り。し。馬。乃。さ。里
乃。端。幅。と。や。らん。と。主。侯。卿。大。夫。と。い。ふ。も。世。儒。は。聖。賢。の
事。成。事。學。と。く。り。は。く。聖。人。乃。道。成。儒。道。と。い。ふ。なり。
日本は。我。國。也。世。俗。と。志。の。多。れ。ん。我。士。を。喪。乃。謀。く。成
て。養。老。小。吏。道。と。指南。と。い。ふ。なり。戦。玉。此。時。古。師。成
一。部。也。此。と。失。ひ。く。日本は。と。り。奉。ふ。人。乃。松。乃。者。多。く
なり。ぬ。長。乱。や。し。く。後。び。ま。り。事。人。日本。乃。軍。人。の。ど。く
成。く。文學。して。遊。説。と。り。者。わ。り。官。職。祿。位。を。れ。ん。五



等の人倫の外は。若く儒者と名なき。道学といふ産業こ
せり。此は異端遊民の始なり。あつらひ。道。家。乃。徒。也
来。佛。氏。乃。流。派。也。相。争。て。道。学。と。説。て。世。俗。と。り。遊。民
多。く。か。り。ぬ。異。端。ハ。仙。佛。乃。徒。の。多。く。わ。り。儒。者。其。本。也
博。文。の。儒。者。と。一。向。一。役。は。な。り。下。り。四。用。と。達。と。り。と。れ
なり。遊。民。乃。わ。り。説。矣。獨。は。り。く。と。小。人。乃。儒。な。れ。と。古
乃。師。儒。乃。あ。や。し。心。学。者。格。法。者。朱。学。王。学。陸。学。な。や
名。宗。も。れ。ん。遊。民。也。矣。端。なり。い。ひ。ま。れ。け。或。ハ。文。学。は
い。さ。な。く。て。史。儒。乃。用。を。と。達。を。い。文。学。わ。し。と。多。慢
み。く。人。は。あ。く。事。と。い。者。と。も。或。ハ。云。儒。者。乃。乃
学。と。任。と。り。何。乃。役。儀。と。か。こ。の。なり。と。あ。い。佛。者
の。五。倫。と。離。也。五。等。と。出。何。の。不。作。と。か。せ。れ。と。佛。道。と。こ

外書卷之六

初は聖人の言也。母んえあはは。そと寂初乃三十六字也。せ
とより下門とこれ儒約と多ハ後乃人の此を而そる魯
の良也。孔子よゆく。夫子れれしる服ハ儒服と同路ハ
孔子對く作る色きつハ。此う若き時魯よとより。逢掖乃
衣と著たり。長とく宋よとと。章甫乃冠と加りあり
なり。此よととと。夫子れ學ハ博し。其服ハ知よとと
ふ。此ハ儒服と云るはと乃あつ。是と云ん是ハ孔子ハ儒
者小わくさけり明あり。儒約の語をわあやとあはは
あ。聖人の語學よわつたり。今禮儀乃風乃こりこり
このと。士たる。士よ學問と人多くハ。人あは
た出來へ。士あつ。文士二道とかさつ。この
り。此ハ道と云。道と云。道具よから幸たり。文士と云

小有し。多り人と士君子とわつ也。大樹諸侯大夫士と那
る子なり。愈とる理也。文士乃二よつ。あつとつ。幸と世
よ道乃た。こ故なり。文道ハ天下國家と平治く。文道ハ礼
と鎮め。賊を討。蛇蝎猛獸と云りそも。天下國家を警固
とる。是乃なり。あつ。申古より。云家の文道乃役也。家
ち。是乃役者や。つ。根ハ云家。家と云。名ハ。わ
る。さる。幸なり。兵乱久し。か。さる。即代の
何と。道なく。奢者も。上。乃人。文士。小
と。詩歌管絃乃風流の事や。あ。事わ
る。時。さ。征と。地。下。乃。文。領。を
や。此。必。小。か。ひ。之。回。籠。よ。野。人。よ。親。し。こ。若。お
は。て。て。罰。さ。は。は。此。者。と。文。士。と。名。付。り。文。切

小身の。大身よなきは。武士も武事のみぬめり。官位は
きんご。武士よ守護をましく女けり。それなり文武二より
くれぬり。後より文と由とれ文なり。極む文の文より。此
乃字となくして。あふ奇を。詩と作ると。以文通と。是
あり者多し。文なきは。武と由とれ。武なり。極む。やじり
乃義と志して。いづらひらとらむ。よらふ。若とせ。いひる
以武と。そとる者あり。 同文官。武官といふもの。を
ひく。よらわく。次や。 曰。今。武家。よ。又。いひ。所。右。筆
以勅定。こ。な。や。の。類。も。文。官。乃。あ。く。所。馬。く。此。種。を
約。所。旗。奉行。軍。法。者。な。し。い。は。武。官。乃。あ。く。役。者。と
云。もの。と。わ。は。し。と。也。皆。武。士。なり。古。乃。文。官。武。官。と。ふ。く
乃。あ。く。二。よ。と。あ。よ。は。わ。く。は。多。何。と。と。名。乃。は。く。ぬ。武

士。由。と。乃。武。士。なり。い。じ。と。も。と。役。者。と。云。もの。も。其
役。も。違。と。れ。外。乃。事。ハ。その。の。わ。く。と。て。も。若。く。は
是。故。よ。藝。者。よ。人。く。よ。た。ま。ハ。由。也。武。家。と。武。道。と。本
道具。よ。成。く。ま。こ。二。よ。成。り。と。わ。り。も。武。乃。末。の。云。家。乃。と
や。く。よ。成。く。威。乃。の。つ。と。あり。亦。なり
一。朋。友。同。小。笠。原。乃。志。の。を。く。て。ん。軍。法。乃。わ。く。い。ふ
云。古。乃。志。乃。志。なり。軍。法。も。五。禮。乃。一。た。れ。ハ。孔。官。武。家
よ。わ。り。なり。多。軍。乃。次。才。作。法。と。記。し。多。り。也。乃。なり。此
故。よ。軍。礼。とい。ふ。軍。乃。次。才。作。法。と。知。く。其。上。よ。肯。乃。名
將。乃。合。戦。の。志。と。さ。け。も。軍。礼。悉。わ。り。大。將。ハ。其。心。よ。軍。法
乃。勝。負。乃。利。志。と。し。也。乃。也。根。款。よ。向。て。変化。と。ら。む。わ。り。
義。乃。正。成。是。也

叶んは。今乃道者と云そののち。工高よをるへま人うかひえ
なるを。よしととぬるありぬらぬなり。そのく聖學は罪
人と成る居れり。仏とをさるはあやゆまり。道學は本道
具よかりとらり。世人と亦あまは家とん。籟うりたる子
あまも。醫者と成る。小神祇職と知れん。法橋法眼と
かりて。系物よのり。登りりやとて座の子とて。お家と必
く。經とよと後身ととけし。長老と成る。高座よのがる
ぬらひよ。そんえをる色を賢の道と任とらと云者と。其
學文と除く。常れ者ありて。其人うと見ゆるまふ人あ
り。代官のよ代たとやうの事ありて。成ゆき人うり多
く。極と工高うておあひあるものを世傳よとてうりて
んまて。はまのけり。高とつあまをかり。世おぬらひなり。と

くれぬらん者は。筋よと身どよとよけまうなり。大方ゆ
みく乃下とこといぬらりあま。身中の依性なり。その
也。醫者と人うりぬらぬの事なけまて。醫術よよ
次身かまとのなれを。藝よせんて。色可なり。坊主は肉
と不食。不娼戒とぬら。よく速う。其行とつとめぬら
かより人かのものなれを身中人うりえらひなり。さ
へ。聖學とよゆら。人倫とたん。人道と人うりおそ肝要也
一志あり人乃代官役と成るり同く云。今時ハ民間よ誰有
よとなく。いして。とら費へ多し。代官あり。慈悲正直
いそく。世費とやん。下によと免う。一成を其上下を
出系有へ。一成あり。五分と百姓よとと。五分ハ上へ免
うて。下と。其同と。下代官等よ。其系多し。を

私曲かこむ根よと何ともいままの條系あへし。其條系とりの
 ては。國中いさうなる事と成つていへ。言云内
 其通よ事及ゆり。たれとと理屈と務と。情よのうらと
 得ん志結とくハ。能初よも國郡乃まのこをたは。なうさ
 どののくゆり。其殿乃身上唯今禄と人教と相叶らん。其
 上よ一五人のうら人あへし。其入用と別よ合力志と結ん。亦
 よとくむとふとと。別よわら有條とわらゆ。いふ所よさ
 した。こく書つてゆり。理屈とくいへ。そも入用とりの
 なれた。亦へわらゆり。内うとくはいや。その何と。同くみ
 根よゆかえゆりとも。事忠情と務と。た根よふたうゆり
 の也。同よ見ん。ゆりとも。結と出ん。事ハたうへくゆりとも。其
 半分もくとも。こよとくとも。夜免よ五給と。民ハ痛と

ゆり。其上其殿乃慈悲心直乃入とく。一代とくともわ
 へさう。代友器とたは。其免乃上りとく。亦とくともとく
 其介の事ハ。世乃あへくとも。ゆり。たうは其殿乃代官と
 ハ。七所よ成つていへ。えよと人乃悪哉。結とぬとのくゆ
 是は。後の頼かこむ根よ。万事分別わらふと事なり
 同志とくハ。いへくゆり。日傳中其殿乃代官と。他
 亦も。一万余石の領よ。下代二人とく。よく致者も一万余石
 して。あやとくわらう。何くとも。二人とくとも事
 ゆり。よふとと選と。一人あへて其給分をかき遣し。
 百姓系より私曲かこむ根よとくゆり。よと。店屋わら。亦と。
 代乃。結とくとも。ゆり。免角とくとも。人乃入とくゆり

とわくをゆり。毛見とくふしと大ふりきあふり。毛免は
 窮めらゆへ。ちねみして百姓いさふとてハ。飢饉兼と
 云とれと出させとて。軍國水旱の憂は備あへし。想
 て物を。わさる有次第ははくも乃とくゆは。免とて
 みる。よへ進しあふと。何の目あをんえん。はるまゆく
 し。どうひろきつるハ志めとて。乃たり。奢ると天のいじ
 而かまは。お積不作なとせは。其免乃ちく成あふ故よ上
 色一入速感かさる。よれも直はぬ。一五年とをわり。
 武士乃勝はる。乃ちさあふ後よ。又中乃ちく下直はたり
 おさる。武士あふ志望とすり切く。難儀よ及とあ也。人乃
 ちつのも常からあそよくゆき
 一心友曰。月馬遷る。伯夷叔齊と。巢又許由と。同く松よ

書るは。道と不義なり。伯夷兄弟は海よのくまを
 兄弟國とゆつり。且つり悪政とさけつ。向たり。前陽よ
 うへ。あふ事ハ。君臣の義とめてたり。あふ。山岳隠逸と
 する。はわつ。皆時乃義あり。さる事也。許由ハ時乃義の
 有る。つわ。あふ。小世中といひ。山水と好む。清よ遇あふ
 のかり。義かふ。清よ。子乃清よわつ。伯夷と目と
 同く。つ。皆曰。是至福也。徳大許由。んとあふ
 也。或弟ハ。義とゆつ。山水と好む。隠居と。事と
 あり。あふ。乃道よわつ。つ。予曰。予とよくあふ
 乃諸たり。予ハ天下乃不肖人あり。あふ。れ。成。さ。馬乃家
 じ生れ。武士乃は。粗さき。氣力あふ。は。ん
 か。つ。あ。か。同。あ。ゆ。古は。み。等。人。傷。の

少くはなりやとひく。十百倍して王子の学と物とを
 ちりせのん人れとくおもふらとどかくせふとるくさかひ前
 幾程をたかくて。中江氏死をたりのさ中江氏ハ生付く
 氣質小君子乃風あり。徳業と備へぬりあわく人あり
 くの学は未熟もく。異学の代い名をありた。六年令
 中の氏も生の時と。予を始とて。皆粗学乃共やと
 かりし。ゆか之を愈と共一人とたうらうらよ。中江氏乃名
 小君子とく。江西乃学者れ。名乃夫よ過ぬらとく十百倍
 かとは。流つえとまて大たり。予を自とくと。人乃と小と学
 流乃異流よりうたあわると見。証ととらうとき。未事流
 とそく。聖経のそんれハ朱子孟子小。聖経小と記

全うらに。つととと助はなとて。堯舜と師とて
 あやまてらるとのハわらうらに。此母えとて後ハ関東へも
 ゆい。病者とあくへもとあはれぬ。あ人乃知西は。ひく
 乃わらりたり。学者同。儒佛乃別をいつと乃而そ
 答曰輪廻といふといし。何とたり。同事と小異多
 答其事く乃異皆此根なり出。とく。造化輪廻をち
 し。仏氏乃事。皆是たりの。あらふ小汝儒者となれ我
 仏となりていん。同佛氏寂滅為樂。万物滅し令
 ありと成仏とん。我儒生そ乃知は異也。曰執著成
 解らぬあふ。皆邪た小職。可敬除去らる。而れ公と寂滅
 為樂とん。向是又後人乃理と付。かたう人妻子を
 絶。まらく子孫と絶とみく。極まらぬ。天道とんは。

善とわりの老ハ子孫榮へ。悪とわりの老ハ子孫亡。志うらけ
 悪とわりの子孫と亡くと佛道乃善とせんとて何そ善
 態善行と此とせむや。善行慈悲と方便。曰仏氏
 と大虚と出。天道何とつや。多る受。問志うら何と悪
 とかならむや。志うらこれ方便。曰悪とありて子孫
 亡らむ。寂滅は此とせむと其悪ハ輪廻とて地生は
 又今ハ子孫と終つたくなれとも。又地生よと死て
 子孫あり。慈悲善行して子孫と終老ハ出家とて
 小子孫と絶。又我らる清淨して。輪廻と離とぬ。
 問志うら天地万物をこもは志うらむ。曰やうらむと
 よ。中より一物を。問先生いへ見や。曰造化輪廻
 なく。又仏と成る。志うら輪廻の理あり。元か

無明なり。是以佛氏乃て非なり。仏氏本未乃面目
 とつとも。後来より見ると之は故。無明といハ輪廻と
 なり。又十二万歳乃後。天地萬物皆無。何ぞ
 小教乃内小若勞と也。堯舜乃所代は。邪魔か
 つてあり。天下れ無明輪廻一時は。何ぞ門とてか
 て。終つ切なり。此とて。仏氏乃後。天下れ
 輪廻人とかり。無明とてなり。悪業内外は。何ぞ
 妄執の物。みち。出家よ志うらは。何ぞ
 理不二なり。心とて。小輪廻何ぞ。何ぞ地獄輪廻なり
 せむと。曰ん佛と我乃何ぞ。我といふは
 わり乃多く。女ハ輪廻と云ふと。我ハ悪と云ふ心よ
 悪は身は。不肖なり。問り。輪廻乃何ぞ

そのまゝいひ曰ひしに死てよみ入心志何事とていふ
 仏法をよみ事ありし心ゆふよみく生れ目病て中
 小病とていふ事あり。空中本花なり。眼乃病よりりて
 生れ。昔田まわつて夜中小大なりりりといふはつり
 氣味あり。夜ゆひひくつ移れを夜もどろりりりり
 せあり。夜ゆひひくつ移れを夜もどろりりりり
 あきと見て後うり来りていふと云はれどいふなり。中
 後生輪廻なり。佛はふりりて後生輪廻となはるりり
 小あり。しりり或僧幽霊と見えく曰後生を又いふなり
 ちのちりり。正しく後生乃死よりりり。幽霊と来りりり
 と見たりりり奇特なり。同怨霊幽霊なりりりりりり
 わりりり。曰万々人よまを人。億々にまを人何りりりりり

業魄乃よくくはよきこと。後生ふゆりは皆沈魂滞魄
 と云ふとわき事。數ありりり滅と。しりりり乃名僧乃天狗と
 成ありりり。救ありりり皆滅しりり。天性と云ふぬりりりりり
 歎と同一く生滅と。其内執着物りりり。其死と云ふ
 る者。志りりりり沈魂滞魄乃具りりりり。定ありりりりり
 わりりり。人乃んまを人乃形ありりり。真れ吾は形色声
 臭れり。何そ生死はゆりりり。幽明人鬼一貫なりりり。同
 天狗よりりりり。何そ。云学文ありりり。慢無欲なり
 ちの沈魂滞魄。天狗と云ふ者ありりり。故よ昔乃坊まれ
 申小ありりりり者多し。近年の出家と云ふありりりり
 慢と云ふなりりりり。故よ天狗と云ふなりりりり
 せりりり

一朋友同曰。何乃法を備ひ事をとたせれとも。帝と書物紙よりてを。各別おこくたすこといふ。答曰。人乃神道をも守りて。かりやくりたり。うまきものハ氣小のり。志のまじり。そのま氣とこころ。故也。目とふたれく。おもえは是れ也。精神はあひまりて。取をのまじり。故なり。肯志乃。道れ不達志なり。事ハ。心りとたまこふ。精神ちり。故なり。よく見ひくきかきて。心りとたまこふ。ぬ地よく。目とふたれく。てんは悪生ん。出家あり者。出家とよくと思ふ。よくや著なり。それよりよく。年と物我もまじり。答曰。志より。我を聖とまじれく。儒よ著せん。信學れり。よくを志見く。朱子王学等乃。費へ志まじり。よくを志まじり。

と見ゆ。天地の神道と大道と云。我國より。日本乃水と小。乃神道あり。大道と名かをまじり。我玉の乃たれは。やむと得とて。神道とて。何なり。一心友同。そ乃人。貴老乃。組子れ。中よ。色あり。命と何なり。乃身と乃人なり。彼より。来り。文乃。よく。志。心。なり。老より。も。回。松。よく。心。過。中。り。と。や。P。ゆ。ん。目。人。よ。か。き。別。よ。故。わ。り。交。り。れ。大体乃。朋友也。又他。此。人。かり。義士。よ。は。た。り。定。り。下。か。り。同。く。志。よ。事。人。く。ハ。次。有。乃。あ。り。わ。れ。は。其。分。ふ。志。こ。ふ。心。也。我。組。子。也。他。乃。組。子。と。は。と。ち。異。なり。終。義。あり。他。玉。の。人。よ。射。して。其。身上。乃。多。少。と。存。在。り。同。貴。老。他。玉。の。老。へ。ハ。状。の。文。と。く。く。か。り。ま。じ。り。他。玉。の。人。よ。と。み。て

多聞集卷之六 朋誼三

所行をゆくば。小身の方なり。かまひあるゆき。曰。祿
 多志よは人多し。天の命也。天乃命教多人。かまひは。うやま
 いさしむ。是れ我分と云ふ也。他由の人。我れ子もと有へ
 き。ほふの小身の人の我れと云ふま。何れも。世んか。う。う。
 へん。と。世方より。共。や。ま。い。と。交。向。て。ふ。あ。つ。は。つ。と。又。士
 の義也。彼は。我れ。よ。ま。さ。ご。い。我れ。義。と。む。と。義。は。よ。ま。宿。ま
 と。か。ま。せ。り。

一心交向。この人を。小身を。れ。と。他國の人。也。う。め。お。さ。り
 来。ら。文。神。を。わ。く。し。ら。う。貴。老。り。れ。返。状。同。玉。乃。他。の。從。子
 也。と。乃。文。よ。わ。く。こ。松。なり。え。う。は。彼。り。を。今。ハ。文。神。か。さ。し。こ
 づ。い。う。か。り。故。と。せ。ゆ。ら。や。曰。か。の。人。を。地。乃。の。と。お。す。大。神。の
 朋友。と。く。と。れ。し。愚。よ。ん。術。を。こ。う。せ。し。と。と。求。め。く。と。き。

といれども。愚病若し。と。対談。と。人。よ。あ。つ。ら。う。ら。ん。ん
 性。來。の。書。簡。と。わ。く。さ。あり。も。是。と。見。ん。と。益。と。得。り。と。つ。り
 志。れ。を。愚。心。術。と。求。め。ら。り。れ。知。人。也。是。大。身。なり。と。文
 神。か。さ。し。ら。ん。現。や。れ。人。よ。と。い。を。や。愚。又。の。人。よ。と。い。て
 同。一。極。よ。や。く。し。と。と。事。を。道。理。れ。ら。お。す。あ。か。の
 人。れ。求。め。お。さ。ら。う。の。と。なり。愚。文。乃。や。く。し。と。と。ね。と。て
 か。ま。り。と。初。乃。文。神。と。か。く。同。筆。れ。と。と。か。ら。か。り
 人の義と云ふは。法と好む。さ。り。なり。義と。宜。なり。何。れ。位
 れ。より。と。さ。ら。ん。志。る。也。大。神。の。朋。友。も。あ。ら。ん。あ。ら。ん。乃。は
 わ。る。道。理。と。な。と。と。か。い。義。と。云。ら。り。あり。愚。書。い。ら。り。と。
 益。と。ゆ。ら。り。と。い。恩。と。志。さ。ば。方。れ。文。乃。す。と。と。や。く。し
 くと。と。め。く。文。神。か。さ。ら。ん。は。徳。と。よ。の。り。ら。り。なり。と。

乃たしい。いひせざるなり。傍輩れ中の更して、年とひて、先づ成
 なるまよとよひしとる。直長と陪臣と、並に年あされと陪
 臣乃た、よとよま。いひせざるなり。我と今、は、凡
 俗、いひ、公用乃た、更、ま、は、敢、と、ぬ、ふ、と、れ、い、は、な、れ、更、と、
 各別乃た、事、ち、り、我、有、徳、よ、わ、く、と、た、志、と、る、事、あ、り、
 して、思、よ、道、と、求、ゆ、人、と、其、道、と、致、と、る、か、り、我、と、又
 道徳乃た、更、ま、り、て、公用乃た、わ、ら、ぬ、わ、れ、と、ぬ、ふ、の、い、ふ
 わ、く、に、魚、敵、子、友、み、人、と、る、こ、こ、富、貴、と、こ、こ、と、こ、ま、ん
 同業乃た、お、く、し、て、な、と、せ、り、み、人、の、若、も、献、子、の、富、貴、は、
 ん、次、こ、こ、云、位、と、忘、と、く、な、と、せ、り、あ、と、右、乃た、道、か、り、今、れ
 世、の、風、俗、く、れ、く、の、義、と、あ、く、な、れ、遠、慮、し、て、い、ま、と、
 内、侯、と、致、と、る、事、か、せ、る、の、風、の、ま、は、り、ま、と、る、志、と、る

ふ、い、ま、と、な、れ、と、い、ふ、と、れ、士、乃た、天、爵、と、志、く、は、中、と、り、た、れ
 る、の、故、也、し、り、予、と、り、か、つ、し、時、三、公、乃た、職、よ、お、く、ま、ん、人
 悪、く、虚、名、と、ま、ら、く、ぬ、れ、と、食、膳、わ、り、と、こ、こ、と、
 ち、り、は、く、り、予、事、も、れ、く、か、ら、な、朝、夕、れ、常、と、ん、え、り、も、後
 お、い、茶、出、ぬ、予、禱、し、と、次、乃た、同、ま、と、る、く、志、く、入、也、こ、が
 其、由、置、と、く、飲、人、の、内、侯、乃た、ま、と、く、わ、り、と、る、が、も
 皆、予、よ、ゆ、つ、り、あ、い、こ、其、間、は、内、侯、れ、兼、と、り、あ、り、
 た、次、乃た、あ、ま、く、と、り、給、と、る、予、の、帰、り、時、は、玄、園、予、を、
 くり、あ、り、予、小、君、と、稱、し、あ、り、名、と、い、ひ、あ、り、も、敵、と、付
 給、り、人、の、道、徳、と、あ、り、給、い、ま、り、と、る、と、士、乃た、中、と、
 した、ま、ん、且、時、の、義、と、志、り、あ、り、あ、り、也、然、ら、諸、侯、乃た、陪、臣、也、
 公用、と、ひ、と、る、時、は、玄、園、より、養、者、と、ひ、と、る、い、次、と、一、飯

老たり。同座よ食欲と人さ松なり。世乃老のすまわを
 各別乃義あり。未だるものされ。其おとさく。故に
 乃賓客と。又合飲乃客あつこれ。其被義の
 ぞくちて。さくれ。の死を。此時あつて。予と
 か。と。あつて。人あつて。こ。あつて。乃。死。や。他。乃
 園内候と。志。れ。と。徳。と。貴。と。其。義。一。あり
 貴とさふ。の。天。と。徳。と。天。と。樂。之。平。不
 徳。れ。と。徳。あ。つ。て。貴。人。乃。あ。は。貴。人。乃。徳
 かり。予。と。小。か。り。て。尸。の。び。と。は。あり。と。ん。い。思
 乃。あ。り。貴。と。さ。て。あ。つ。て。貴。人。又。予。と。教。し。給
 へ。相。比。け。り。同。輩。乃。さ。り。お。其。勢。あり。又。其。比。貴。人
 乃。徳。と。さ。い。道。と。さ。り。予。と。意。情。あ。あ。と。ん。い。と。

ことりた。徳とさ。い。貴とさ。い。予と。陪。居。の。あ
 ひ。ら。い。よ。志。あ。り。あ。つ。大。神。の。使。者。さ。り。未。だ。は。む。あり
 予。と。願。う。あ。つ。予。乃。さ。り。老。後。乃。席。と。か。ん。甲。さ。あ
 ま。く。あ。つ。あ。つ。の。宜。と。志。り。給。り。婦。人。の。意。情。は。徳。と。夫
 夫。の。意。切。は。あ。つ。大。乃。事。あ。つ。人。あ。つ。と。あ。ひ。り
 重。て。ゆ。す

一心友同。信儒と。い。と。聖賢は。道。と。い。あり。是。道。と。あ。り。お
 かな。は。教。と。い。なり。曰。予。と。あ。つ。た。は。信。儒。と。い。た。物。は
 尋。同。う。ら。其。お。よ。り。の。態。勤。小。と。い。先。日。予。あ。つ。た。と。い
 同。公。侯。伯。子。男。れ。位。の。人。と。信。儒。と。い。い。く。あ。つ。い。あ。つ。と
 や。曰。れ。た。文。字。と。い。く。産。業。と。い。身。と。あ。り。は。さ。り。

一 徳とさい 二 貴とさい 三 予と 四 陪居のあひらき 五 志あり 六 大神の使者 七 未だはむあり 八 予と願うあつ 九 予乃さり 十 老後乃席とかん甲さあま 十一 くあつあつの宜と志り 十二 婦人の意情は徳と 十三 夫の意切はあつ 十四 大乃事あつ 十五 人あつとあひり 十六 重てゆす

乃身かろ。後儀既法せらるる。或士かろ。是の
 ように極に穢穢を志す所故なり。其のやせらるるは
 此氣よ入。過と改めし心也。大に氣よあつた。作學志の
 境もよ。後れよとらゆも。士君子の道と志しゆ。決志
 うれと。今く學志の非よと何ん。愚う氣力より。是時
 の極よ。とくやうかろ。由るは。是れ物とゆへ。由るは。
 文義とよ。家風より。のゆりかま。

集義外書卷六終

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

